

情報技術を活用した教育研究環境の改善に向けて

著者	相賀 一郎
引用	総合情報センター年報情報. 1999, 5, p.1-1
URL	http://hdl.handle.net/10466/10936

情報技術を活用した教育研究環境の改善に向けて

大阪府立大学長 相賀 一郎

大学ルネッサンスと呼ばれる改革がここ10年間にわたり各大学で継続的に進められているなか、昨年10月に大学審議会の「21世紀の大学像と今後の改革方策について」の答申がなされた。この答申では改革の4つの基本理念として、「課題探求能力の育成—教育研究の質の向上—」「教育研究システムの柔構造化—大学の自律性の確保—」「責任ある意思決定と実行—組織運営体制の整備—」「多元的な評価システムの確立—大学の個性化と教育研究の不断の改善—」があげられている。本学においても各学部及び各研究科で改革に取り組み成果をあげてきたところであるが、答申に述べられている制度的な改革をも念頭において、改めて全学的な視点からの議論が必要であろう。

上で述べた4つの基本理念の前二者にかかわる問題として、日進月歩の高度情報処理技術を教育研究にいかん適切に活用するかが一つの鍵になると考えられ、その意味で総合情報センターの役割が今後ますます重要となってくるものと思われる。幸いにして設置者及び関係各位のご尽力により、今年4月に待望の高速キャンパスネットワークが整備されるとともに図書館システムおよび教育研究用情報処理システムが更新され、本学の情報基盤が格段に強化されることとなった。これによりハードとしては統合情報環境の構築へ向けて大きな前進がみられたところであり、これらのハードをいかに教育研究に活用して行くべきかはわれわれに課せられたこれからの大きな課題である。

ちなみに、いくつかの国立大学ではすでに情報技術を活用した大学教育改革の拠点となる組織が新設されている。たとえば、京都大学では平成9年度に「総合情報メディアセンター」が設立され、平成12年度までに、①情報処理教育環境の提供、②対話型語学教育システムの提供、③オープンスペースラボによる学習環境の提供、④遠隔講義の支援、⑤教材作成・教育データベースの構築支援、⑥研究開発成果による最新情報環境の提供、を実現すべく年次計画が実施されている。

この例にみられるように、情報技術を最大限に駆使した教育研究環境はこれからの大学としては必須であり、キャンパスネットワーク等のこのたびの整備を機に、本学においても教育研究環境のより一層の充実をはかるべく議論を始めて全学的なコンセンサスを早急に得ることを期待する次第である。